

町民の声

地場産物を使った学校給食



給食センター
栄養教諭
西川 泰弘 さん

学校給食では、福島町産の食材を積極的に使用しています。黒米、千切り昆布、椎茸などを中心に使用しています。町内の農家さんが作る野菜類や、漁業協同組合や町から、ウニやあわびなどを提供していただいています。

他町の学校給食では、とても提供されないであろう高級食材も提供することができています。また、黒米はこれまでカレーの日に提供していましたが、福島町の子どもたちにとって、より馴染みのあるもので身近に食べてもらいたいとの思いから、様々な献立と組み合わせで提供することにしました。

今後の課題として、町内産の食材の使用率を向上させることが必要です。町内の生産者や加工業者に一層の協力を頂きながら、福島町の特色を活かした安心安全な給食の提供をすることで、たくましい子ども達の成長に貢献していきたいと思えます。

議員の雑感

第二青函トンネル構想の実現へ



副議長
平野 隆雄

日本列島を海でざっくり分けると、北海道、本州、四国、九州となる。

本州は四国と3本の橋で道路と在来線が、九州とは橋とトンネルで道路と在来線、新幹線が繋がっており、どちらも本州と陸続きといっても差し支えない程、インフラ整備が整っている。

第二青函トンネル構想では、トンネル下部を貨物列車、上部をトラックや家用車での走行を可能にする事で、より円滑で大量の物資を本州以南へ運ぶ大動脈のような役割となり、北海道の豊富な農水産物を、より輸送コストを削減且つ新鮮なうちに全国に届ける事ができる。個人移動も然り、本州各地への所要時間も大幅短縮となり、人の往来が容易になるため、観光や仕事の経済的メリットは勿論、様々な効果を生み出す事ができるだろう。

これまで沖縄と北海道は道路交通では離島と位置付けられる地域だったが、初めてその位置付けから脱却出来ると期待される第二青函トンネル構想は、北海道経済の未来を大きく変える可能性を持った事業だ。北海道が「道」で繋がっていない事を格差と捉え、今こそ「第二青函トンネル」着工を願う。

議会の主な会議・行事予定

※変更・追加となる場合もあります。

12月1日(水)	一般質問通告 議会運営委員会 ・定例会12月会議の運営ほか	午前10時～午後2時 午後3時～	委員会室
3日(金)	広域事務組合議会第3回定例会	午後2時～	福島町議会議場
6日(月)	12月会議勉強会	午後1時30分～	議員控室
8日(水)	定例会12月会議	午前10時～	議会議場
9日(木)	定例会12月会議	午前10時～	議会議場
10日(金)	定例会12月会議	午前10時～	議会議場
1月19日(水)	議会運営委員会 ・議会だよりの編集	午後1時30分～	議員控室

編集後記

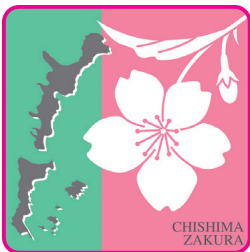
大々的に報道され続けていた新型コロナウイルスの新規感染者数も減少し、緊急事態宣言に伴う各種制限も緩和され、少しずつですが、皆様の落ち着いた日常が戻ってきているのではないのでしょうか。

コロナ禍でなかなか帰省できなかった家族と、ゆっくりすごせる年末年始になることを祈っております。

・ ・ ・ ・

次回（令和4年2月1日発行）は、定例会12月会議を中心に紹介する予定です。

少し早いですが皆様良いお年を。



北方領土返還要求運動
シンボル「千島桜」